

平成 18 年度第 2 回 ExTEND2005 化学物質の内分泌かく乱作用 に関する検討会 議事要旨 (案) (一部抜粋)

- I 日時：平成 18 年 10 月 31 日 (火) 16:00~18:00
- II 場所：厚生労働省(中央合同庁舎 5 号館) 5 階 共用第 7 会議室
- III 出席委員：有田芳子、井上達、岩本公宏、上路雅子、北野大(座長代行)、
佐藤洋、高橋道人、立川涼、遠山千春、渡邊信
事務局：上田環境保健部長、青木環境安全課長、森下化学物質審査室長 他
- IV 議題：
- (1) 作用・影響評価結果について
 - (2) 基盤的研究の推進について
 - (3) 野生生物の生物学的知見収集について
 - (4) 国際協力事業について
 - (5) リスクコミュニケーションの推進について
 - (6) その他
- V 議事要旨(議題 5 リスクコミュニケーションの推進について 一部抜粋)
以下の内容について、資料に沿って事務局より説明・報告を行った。
- 平成 18 年度リスクコミュニケーション推進検討会議事要旨
 - 化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて
 - 平成 18 年度国際シンポジウムについて

【委員からの主な意見】

- ・ かなりの額を使ってシンポジウムを開くわけで、コストパフォーマンスを考えると、もう少し大勢の方が参加しやすいようなところすべき。昨年から、環境ホルモン学会と合同開催をしなくなったため、この分野の研究者が両方に参加することが難しくなった。できるだけ研究者も大勢参加できるような形でのスケジュールを考えて欲しい。
- ・ コミュニケーションは情報を出す側と受けとめる側の双方向でなければ成り立たない。一方的に環境省の宣伝をする、ということでは、コミュニケーションにならない。可能な限り徹底的に情報公開するということがまず出発点。コミュニケーションするなら皆さんができるだけたくさん参加できる場所でやるべきなのに、釧路でやるのはディスコミュニケーション。
- ・ 国際シンポジウムのパネル展示においては、様々な環境 NGO、あるいは野生生物のネットワークグループの方々も一緒に入っていけるような仕組みにして欲しい。